

目次

- | | | | |
|----|--|----|--|
| P1 | らい予防法による被害者の名誉回復及び追悼の日
重監房資料館★前橋出張トークイベント
「人権課題と近現代考古学～「収監・隔離の記憶」を掘る～」 | P3 | 重監房資料館「かたりべの会」を再開
現在、2026年度〈前期〉参加者受付中 |
| P2 | 重監房跡が国の責任で永続的に保存されるリストに登録！
～歴史的建造物の保存等検討会で決定～ | P4 | お知らせ |
| | | P4 | お客さまの声（来館者アンケートより抜粋） |
| | | P4 | ご利用案内・アクセス |

らい予防法による被害者の名誉回復及び追悼の日
重監房資料館★前橋出張トークイベント

「人権課題と近現代考古学～「収監・隔離の記憶」を掘る～」

- 日時** 2026（令和8）年6月20日（土）13時00分～17時00分（開場12時30分）
参加費 無 料（先着100名様、申込不要）
会場 群馬県庁 2階 ビジターセンター
 （群馬県前橋市大手町1丁目1-1 JR両毛線下車、バス約6分「県庁前」下車すぐ）

重監房資料館は、今年も群馬県の協力を得て、ハンセン病療養所栗生楽泉園にかつて存在した「重監房」および資料館の活動について、一般の方々へお知らせするためのトークイベントを開催します。

今回は、「重監房」再現に大きな貢献を果たした発掘調査について話題提供するとともに、考古学調査によってハンセン病患者を「隔離」の事実を掘り起こした、特攻基地で有名な鹿児島県の知覧飛行場跡の調査成果についても紹介いたします。

また考古学の専門家をお招きした講演会では、人権課題であるハンセン病問題の解決や被害者の名誉回復に、考古学的手法も寄与できることをお示しし、近現代を対象にした考古学が切り拓く新たな地平について問題提起します。

- 主催**：国立重監房資料館
共催：群馬県（健康福祉部感染症・疾病対策課）
後援：一般社団法人日本考古学協会 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
 鹿児島県考古学会 東京考古談話会

【プログラム】

1. 開会挨拶（群馬県健康福祉部感染症・疾病対策課）
2. 栗生楽泉園の紹介（*ショート解説 群馬県健康福祉部感染症・疾病対策課）
3. 「重監房」とは何か（*ショート解説 重監房資料館）
4. 回想「重監房」跡の発掘調査（講師：能登健氏）
5. 近現代考古学の現在～高輪築堤跡と重監房跡の発掘から～（講師：谷川章雄氏）
6. 知覧飛行場跡の発掘調査と「隔離」の記憶（講師：上田耕氏・大山勇作氏）
7. トークショー：ハンセン病問題と近現代考古学～記録・記憶・証言と現場検証～
8. 閉会挨拶（重監房資料館）

【講師プロフィール】

- 谷川章雄氏（早稲田大学名誉教授：近世・近現代考古学の専門家）
 能登 健氏（元群馬県埋蔵文化財調査事業団調査研究部長：重監房跡の発掘調査の協力者）
 上田 耕氏（元南九州市教育委員会：特攻基地として有名な知覧飛行場跡の調査を担当、滑走路跡下からハンセン病患者と家族が住んだ隔離屋敷を調査した）
 大山勇作氏（南九州市歴史文化財課：隔離屋敷に住んだ遺族・家族について追跡・聞き取り調査を行う）

- 司会・進行** 黒尾和久（重監房資料館部長）
問い合わせ 重監房資料館（担当 黒尾・鎌田） 電話：0279-88-1550

* オンライン配信もします。
 申し込みは下記のURLアドレス、QRコードから。
 （申込締切 6/15（月））

<https://forms.gle/bbGiPCW13nAcDqTq8>



重監房跡が国の責任で永続的に保存されるリストに登載！！ ～歴史的建造物の保存等検討会で決定～

2026年3月16日、都内で「第13回歴史的建造物の保存等検討会」が開催されました。検討会は、2012年からハンセン病問題基本法第18条等を踏まえて、ハンセン病及びハンセン病対策の歴史に関する正しい知識の普及啓発等に資するため、国立ハンセン病療養所における歴史的建造物の保存等に関する基本的な考え方などの吟味を重ねてきました。

今回は、①前回までの審議で保留案件となっていた納骨堂および宗教施設の取り扱いについて、②栗生楽泉園、大島青松園、奄美和光園の新規案件及び多磨全生園、邑久光明園、菊池恵楓園の継続案件等について、二つの議事が審議されました。

議事①で、留保案件（納骨堂・宗教施設）の取り扱いについて、厚生労働省から、たとえ宗教施設であっても、国有財産として登録されていれば審査対象とできるという方針が示され、了承されたことが重要です。

議事②では、新規案件として栗生楽泉園からもワーキンググループが提出した「歴史建造物等保存対象リスト」19件が審議されて、国有財産として未登録の3件以外の16件が承認されました。じつは、この承認リストに「重監房（特別病室の基礎部分）」が含まれていました。今回の検討会において「重監房」跡地も正式に国の責任において永続的に保存される対象となったことを、ここに改めて報告しておきたいと思います。

顧みるならば、2007年のハンセン病問題対策協議会における確認事項で、療養所の歴史的建造物等の保存等の最優先課題として、いの一歩で取り組む案件になったのが、栗生楽泉園にかつてあった重監房（正式名称「特別病室」）でした。

栗生楽泉園の正門を入ってすぐ右手、熊笹の繁る小径を進んだ奥に重監房跡はあります。その場を保全して、さらに「特別病室」建物を実物大に復

元し、その凄まじさを体感できるようにし、ハンセン病問題の啓発のツールとする。それを強く望んだのが冨雄二さんでした。その主張が協議会での確認事項に盛り込まれたのです。その後、2013年に重監房跡の発掘調査が行われて、その成果をもとに、2014年に再現施設をもつ重監房資料館が開館し、現在に至ります。

重監房跡は、建物基礎の保存措置も行われて、現地は「史跡」として一般に公開され、栗生楽泉園の協力も得ながら重監房資料館スタッフも現地の維持に努めてきました。私たちは重監房跡が、国による誤ったハンセン病政策を顕著に示す重要な物証（＝歴史の場・記憶の場）であり、保存されることを当然視して、仕事をしてきました。今回の検討会での審議を得て、栗生楽泉園入所者自治会による「国が責任を持って施設の長期保存をお願いしたい」という要望が入れられて、考えてみれば、ようやく正式に保存リストに登載されたのです。この事実を喜ぶのと同時に、重く受け止めたいとも思います。これからもスタッフ一同しっかりと仕事をしていく所存です。（黒尾和久）



「調査方法について論ずる」 撮影：黒崎彰

重監房資料館「かたりべの会」を再開 現在、2026年度〈前期〉参加者受付中！

この度、「かたりべの会」を再開しました。重監房資料館の設置目的のひとつに「ハンセン病をめぐる差別と偏見の解消を目指す普及啓発の拠点」があり、この活動の一環として、開館して間もない2015年と2016年にはハンセン病回復者のお話を聴く「語り部の日」を設けていました。しかしながら、当時お話いただいていた方のほとんどが鬼籍に入られ、実施できなくなりました。さらに、新型コロナウイルス感染予防のため資料館職員といえども入所者との面会さえ難しい時期が続きました。


皮肉にも再隔離となったパンデミックの期間を

経て、今まで積極的に話す活動をしてこなかったけれども、内心ではご自分の経験を話したい入所者がいるという感触が得られたのです。そこで、昨年2025年度を通して、楽泉園入所者の「生の声」を一般の来館者に届ける事業を見据えました。栗生楽泉園福祉室の協力のもと、5月から6月に入所者全員（5月時点で29名）にアンケート調査を実施し、当館の趣旨説明と共に新たな協力者を募りました。夏以降は聞き取り調査を繰り返し、12月からWebサイトで申込みを開始し参加者を募り、1月24日と2月28日に開催が叶いました。

1月は栗生楽泉園入所者自治会を、2月は家族を

テーマに、4人の語り部にお話をしてもらいました。大寒波やインフルエンザの時期でありましたが、のべ47名に参加いただきました。参加者からは、再開を祝うお声や感銘を受けたというメールや手紙を頂戴し、企画者としてはモチベーションの向上になりました。しかし、「かたりべの会」は長く続けてこそ深みができる事業と考えております。継続には、皆さまのご協力が必要です。ぜひ入所者の語り部の言葉を直接聞いて、目の前で表情を感じてください。おなじ語り部でもトピックは多々ありますので、リピートのご参加も大歓迎です！

2026年度〈前期〉は5月30日、6月13日、7月11日、8月29日（いずれも土曜日）で実施します。〈後期〉にも開催できるよう調整中です。申込みは左画像のQRコードか、当館ホームページの専用フォームからお願いいたします。皆さまのご参加をお待ちしております。
(鎌田麻希)



**重監房資料館
かたりべの会**

栗生楽泉園の入所者のお話を直接 聞くイベントです

イベントの詳細、お申込み方法は下記QRコードから
重監房資料館ホームページ〔新着情報〕をご覧ください

5月30日・6月13日
7月11日・8月29日



入所者の体調等により、急遽中止になる可能性があります

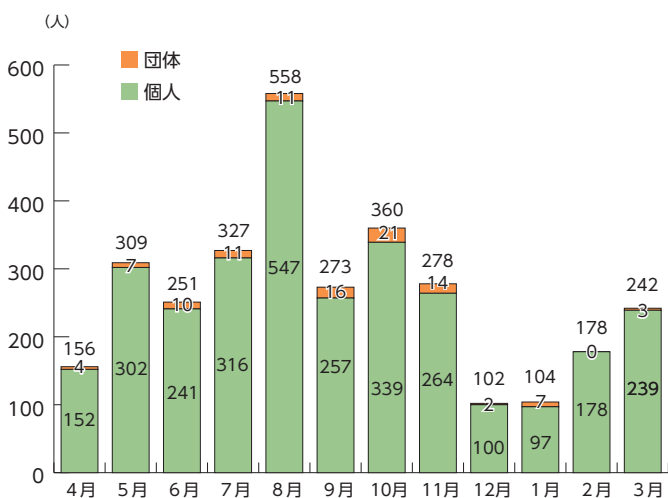
お知らせ

■進入路が舗装されました。

昨年末から続いておりました、国道292号線から重監房資料館駐車場までの未舗装進入路の舗装工事が完了しました。ご見学の方々には、工事の期間中、進入路通行止めによる、隣接する栗生楽泉園経由の回り道でのご来館をお願いし、大変ご不便をおかけしました。これまでの荒れた起伏の多い路面ではなくなり、スムーズに当館までお越し頂けるようになります。



2025 年度来館者統計



2025 年度入館者数

延べ **4,739 人**
 1日平均 **15.8 人**
 開館以来延べ **60,995 人**

ホームページアクセス数

2025 年度 **39,042 件**
 開館以来延べ **515,258 件**

お客様の声 (来館者アンケートより抜粋)

- ◎重監房は、丁度私が生れた時(S16年6月)あったのですネ。戦時中で欠乏の時代でしたが、ひどい扱いをしたものです。特に冬の寒さは耐えられなかったことでしょう。
(長野県、84歳・女、主婦)
- ◎重監房の復元、照明の設置はよかったです。収監者の立場で体験することができました。また、証言コーナーでは栗生園ならではの話を聞けて、重監房は、ハンセン病歴史、人権問題のシンボルだと実感しました。貴重な勉強になりました。
(東京都、25歳・女、学生)
- ◎療養所の近くに資料館があるため、意識的に取り組んでいる人たち以外は、なかなか訪れにくいと思います。巡回展などでできれば、様々な多くの人に伝えられるかもしれません。きちんと学ばねばならないことだと思います。
(神奈川県、39歳、教員)
- ◎最初の案内映像が非常にわかりやすく、ハンセン病の科学的な知識については、初めて知ることが多かったです。重監房の再現もとてもリアルで、身心に訴えかけられました。私は今、一般的な歴史民族資料館に勤めておりますが、職員仲間にも、ぜひ知ってもらいたい場所だと思いました。
(大阪府、29歳・女、学芸員)
- ◎こわいなと思いました。へやのてんじがリアルでわかりやすかった。雪バージョンもあってわかりやすかった。
(栃木県、10歳・女、小学生)
- ◎重監房という施設だが、人間を殺す目的とした施設と理解できる。凍死、熱中症死、栄養不足死、悪環境死。この施設を設計した人、運営した人、管理人などの役人の人々の人生は幸せだったのか？この人達の歴史は、残っていたら紹介してほしい。
(神奈川県、67歳・男、パート)

ご利用案内・アクセス

■開館時間■ 4/26-11/14 (通常期) : 9:30 ~ 16:30 (団体は要予約)
 11/15-4/25 (冬期) : 10:00 ~ 16:00 (団体は要予約)

■休館日■ 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)、国民の祝日の翌日・年末年始・館内整理日 ■入館料■ 無料

■交通案内■ 鉄道・バス利用の場合 JR 吾妻線長野原草津口駅より草津温泉バス約 25 分
 草津温泉バスターミナル下車 タクシー約 7 分、徒歩約 45 分
 車利用の場合 渋川伊香保 IC より約 2 時間 10 分 上田菅平 IC より約 1 時間 50 分
 (草津方面からお越しの場合は楽泉園の正門を入らず、その先 200m の進入路をお入りください。)

重監房資料館「くりう」第 30 号【季刊】

発行日: 2026 (令和 8) 年 5 月 29 日 / 企画・編集・発行 重監房資料館 / URL : <https://www.nhdm.jp/sjpm/>
 〒 377-1711 群馬県吾妻郡草津町草津白根 464-1533 TEL : 0279-88-1550 FAX : 0279-88-1553